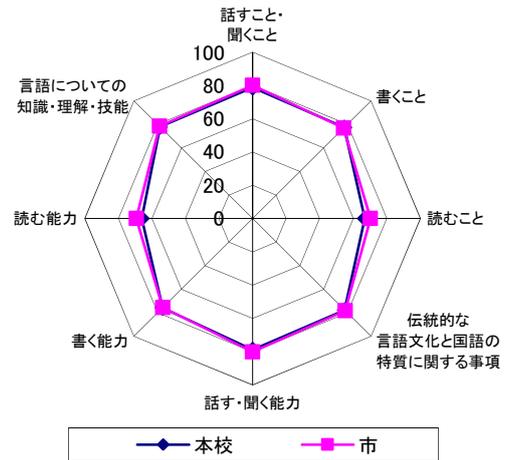


宇都宮市立河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.8	80.1	77.9
	書くこと	77.5	76.8	65.3
	読むこと	66.9	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.7	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	78.8	80.1	77.9
	書く能力	75.8	75.6	64.2
	読む能力	66.0	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	77.9	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

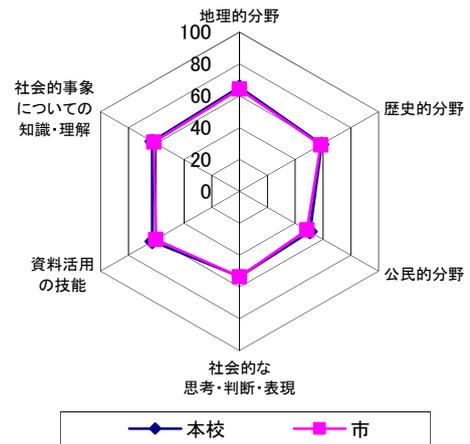
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話し合いの内容を聞き取るという課題について、「意見の述べ方の共通する点を聞き取ることができる」「司会者の工夫を聞き取ることができる」という出題については、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●話し合いの内容を聞き取る課題の中で、「互いの発言を検討して自分の考えを述べることができる」という出題では、市の平均正答率を7.2ポイント下回った。</p>	<p>小グループでの話し合いの場면을意図的に増やし、話し方や聞き方の技術を指導する。</p> <p>聞き取りの演習の機会を増やし、スムーズな聞き取りができるようにしていきたい。</p>
書くこと	<p>○書くことに関しては、作文の全ての観点において、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●「資料を集めて発表原稿を書く」問題では、「社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができる」「事実や意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができる」「自分の考えを根拠を明確にして書くことができる」の全ての項目で市の平均正答率を下回った。</p>	<p>自分の考えや感想、筆者の主張等について、字数を指定して文章を書く機会を増やし、様々な課題に対応できるよう指導していきたい。</p>
読むこと	<p>○説明文の内容を読み取る課題の「文章の展開に即して要旨をとらえることができる」という出題では、市の平均正答率を2.1ポイント上回った。</p> <p>●文学作品の内容を読み取る課題では、全てにおいて市の平均正答率を下回った。</p>	<p>説明的文章では、文章の展開・構成に注意して読解していくよう指導していきたい。また、文学作品の読解については、登場人物の心情や情景描写をとらえながら、表現の特徴や表現の工夫についても指導していきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の書きに関して、4問中3問は市の平均正答率を上回った。</p> <p>●文法、語句に関しては、全ての項目において市の平均正答率を下回った。特に、敬語に関する質問では、市の平均正答率を5.9ポイント下回った。</p>	<p>漢字の読み書きや文法の理解の定着を図るため、定期的な小テストを実施していきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.3	64.1	57.5
	歴史的分野	59.0	58.4	52.8
	公民的分野	50.6	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	53.5	53.6	47.5
	資料活用の技能	62.8	60.3	53.3
	社会的な事象についての知識・理解	62.8	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

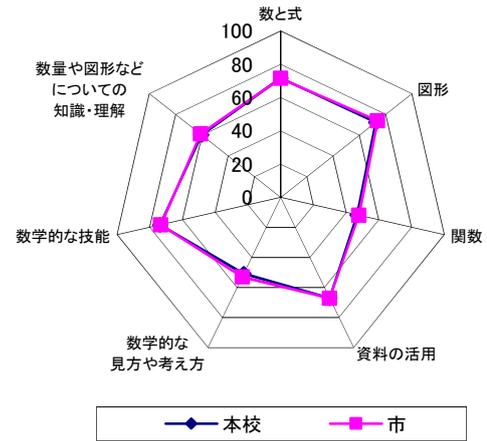
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○市の平均正答率を1.2ポイント上回った。 ○「地球の姿」からの社会的な思考・判断・表現を問う問題で、市の平均正答率を13.9ポイント上回るなど、高い正答率を得られた。</p> <p>●「日本の諸地域」からの社会的な思考・判断・表現を問う問題では、市の平均正答率を最大で7.7ポイント下回るなど、内容によって十分でなかった部分が見られた。</p>	<p>社会的な思考・判断・表現に関する問題では、記述式問題を中心に指導を重ね、今後も能力の向上を図りたい。また、世界地図の特色をはじめ、資料活用についても、演習を重ねたい。</p>
歴史的分野	<p>○市の平均正答率を0.6ポイント上回った。 ○「古代までの日本」からの資料活用の技能を問う問題で、市の平均正答率を14.9ポイント上回った。</p> <p>●「古代までの日本」の内容からの大宝律令について問う問題では、市の平均正答率を10.6ポイント下回るなど、理解不足がうかがえた。</p>	<p>社会的な思考・判断・表現に関する問題では、比較的正答率が低い傾向が見られたが、その他に複数の資料を活用して判断する問題で、正答率が低かった。歴史的分野においても、資料活用問題の演習を重ねたい。</p>
公民的分野	<p>○市の平均正答率を2.1ポイント上回った。 ○「私たちと民主政治」からの社会的な事象についての知識・理解を問う問題で、市の平均正答率を8.2ポイント上回った。日本国憲法の原則や特徴についても、市の平均正答率よりも高く表れていた。</p> <p>●公共の福祉や社会権に関する社会的な事象についての知識・理解を問う問題では、市の平均正答率を下回るなど、日本国憲法の内容に関する問いで理解不足が見られた。</p>	<p>日本国憲法の学習内容については、抽象的な概念を理解することが多く求められる。今後はより一層具体的な事例をもとに課題を解決させる学習を増やすなど、改善していきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	71.8	71.5	66.8
	図形	72.5	73.8	70.4
	関数	46.8	47.8	41.6
	資料の活用	67.0	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	50.8	52.8	45.8
	数学的な技能	73.8	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	60.5	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

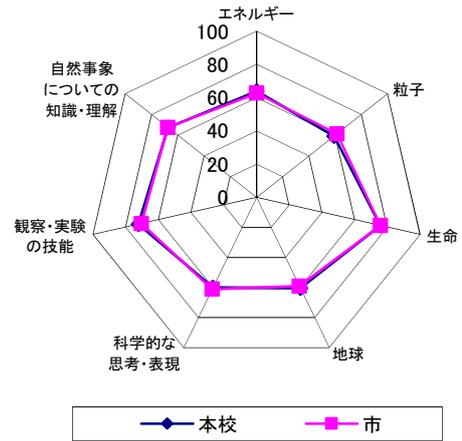
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○市の平均正答率と比べて0.3ポイント高いがほぼ同じ状況である。また、参考値と比べると5.0ポイント高い。</p> <p>○本校の平均正答率が80%を超えている問題は、「乗法を含む正負の数の加法」94.7%、「乗法の公式を使った式の計算や因数分解」87.1%、「根号を含む式の乗法」82.6%で市の平均正答率より1～2ポイント高かった。</p> <p>●本校の平均正答率が50%未満であった設問は、「連立方程式を利用して文章問題を解く」49.2%で、市の正答率より3ポイント低かった。</p>	<p>基本的な計算問題の正答率は高く、定着しているようである。しかし、文字式の計算や根号を含む計算、方程式になると正答率が下がり、理解が不十分な部分が出てくる。今後は、ドリル学習だけではなく、計算方法や計算順を説明させるような時間を設け、筋道を立てた考え方の育成や言語活動の向上につなげる授業改善が必要である。また、文章を読み取る能力も重要であるため、他教科との連携を図っていくことも重要である。</p>
図形	<p>○市の平均正答率と比べて1.3ポイント低いですが、参考値と比べると2.1ポイント高い。</p> <p>○本校の平均正答率が85%を超えている問題は、「図形を平行移動させた距離」85.6%、「証明の過程において平行線の同位角が等しい」87.1%であった。</p> <p>●本校の平均正答率が50%台の問題は、「n角形の外角の和は常に360度」58.3%、「証明の必要性和意味」56.8%であった。</p>	<p>知識・理解や技能の分野においては、おおむね理解できており、正答率も高い。しかし、三角形の合同条件や相似条件を利用して筋道を立てて論理的に説明する証明問題においては、苦手意識が強く、自分なりに理解できるまで深く考えようとする生徒が少ない。今後は、生徒の理解度に応じた学習プリントの作成や自己の理解度に応じたプリントを選択できる能力、生徒が分かったと実感できる授業展開の工夫などが必要である。</p>
関数	<p>○市の平均正答率と比べると1.0ポイント低いですが、参考値と比べると5.2ポイント高い。</p> <p>○本校の平均正答率が70%を超えた問題は、「個数と加熱時間の関係が1次関数になるときの加熱時間」75.8%で市の平均正答率より高かった。</p> <p>●本校の平均正答率は全体的に低い。特に「比例の関係でのx, yの値の変化の関係」18.9%、「グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さ」18.2%と10%台の平均正答率で、市の平均正答率より5ポイント前後低かった。</p>	<p>関数は4つの領域の中で最も苦手意識が強い。「関数とは何か」、「比例と1次関数の違い」、「グラフを読み取る力・グラフを利用して考える力」など、関数は今まで学んだ知識を様々な場面において活用する能力が必要である。そこで今後は、公式を利用して答えが求められることや正解かどうかの問題の中心ではなく、どのような過程を経て正解が求められたのかを説明できるような授業展開(ペア学習を取り入れたたり記述したり)を工夫していく必要がある。生徒同士で学び合うことをとおして苦手意識の克服につなげていきたい。</p>
資料の活用	<p>○市の平均正答率と比べると0.1ポイント低いほぼ同じ状況である。また、参考値と比べると5.6ポイント高い。</p> <p>○本校の平均正答率が80%を超えている問題は、「あたる確率をもとにあたらぬ確率を求める」84.8%であった。</p> <p>●本校の平均正答率は「グラフを読み取り考える確率」56.8%、「ヒストグラムの特徴から説明する」51.5%で、市の平均正答率より6ポイント前後低かった。</p>	<p>各学年の最後の単元であるため、授業中に繰り返し復習する機会が少ない。また、他の単元との関わりも少ないため、数多くの問題に取り組む経験が計算分野に比べて圧倒的に少ないのが現状である。今後は、数学の授業のために用意された問題だけに取り組むのではなく、実生活の中から課題を見つけ、度数分布表の作成や読み取り、確率の学習のよさなどを実感していく授業展開を試みる必要がある。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	63.9	62.7	57.6
	粒子	59.3	61.5	57.7
	生命	75.7	75.8	72.1
	地球	60.4	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	60.0	61.0	54.8
	観察・実験の技能	72.2	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	67.4	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

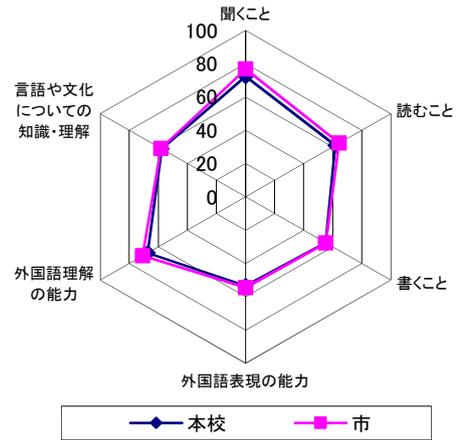
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○領域の全問題で、市の平均正答率を上回った。特に、テープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求める式を答える問題では、市の平均正答率をより6.9ポイント上回っている。</p> <p>●電流が流れない水溶液を選択する問題が、市の平均正答率よりも5.5ポイント下回っている。</p>	<p>従属変数(変化させる要因に伴って変わる事象)を確認し独立変数(変化させる要因)を考える問題や観察、実験を取り入れていきたい。そして、生徒が、自らの考えや他者の考えに対して、多面的、総合的に思考できるようにしていきたい。</p>
粒子	<p>○誤った化学反応式を書き換える問題では、市の平均正答率を4.6ポイント上回っていることから、正しく化学反応式を理解している生徒が多いと考えられる。</p> <p>●鉄と硫黄の化合実験の問題では、市の平均正答率を大幅に下回っているため、実験結果に基づいた科学的思考を伸ばしていく必要がある。</p>	<p>生徒自らが、話し合いなどの言語活動を通して、問題を見いだして予想や仮説を立てたり、観察、実験での探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし、その問題を解決していこうとする場面を取り入れていきたい。</p>
生命	<p>○1年の植物の内容は、全問題において市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●動物の分類の問題や、遺伝子の組み合わせを考える問題に対する本校の平均正答率が低かった。</p>	<p>生徒が疑問を持ち、進んで取り組むような学習課題を設定する。生徒が自らの考えや他者の考えに対して、多面的、総合的に思考できるようにしていきたい。</p>
地球	<p>○地層を作っている岩石の種類の見分け方や気団についてなど、知識・理解を求める問題については正しく答えられている。</p> <p>●地層が堆積した順番や天気図から考える問題に関しては、科学的な理由を答えられないことが多い。</p>	<p>全領域において、似ている科学的な言葉の違いを明確に示し、正しく習得させるよう指導していく。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	72.4	76.8	73.1
	読むこと	61.7	64.5	59.9
	書くこと	55.1	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	53.5	54.5	59.0
	外国語理解の能力	67.3	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	57.7	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○対話の内容を聞き取り、誰のことを言っているのかやどのくらいの期間そうだったかを聞き取る問題についての回答は、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●市の平均正答率を4.4ポイント下回っている。 ●ほとんどの問いの平均正答率が市・参考値を下回っている。</p>	<p>リスニングの問題では、言語の使用場面を聞き取り、状況を理解して対話を聞き取るようにさせたい。 また音読指導を通して英文の発音に慣れさせ、語と語の音がリンクして発音されることを理解したり、聞きとりにくい弱い音があることを理解したりして、聞き取るよう指導していきたい。</p>
読むこと	<p>○長文問題の読み取りでは、内容を推測して読むことの本校の平均正答率が高い。</p> <p>●市の平均正答率を2.8ポイント下回っている。 ●さまざまな英文の読み取りに慣れていないことがわかる。特にto不定詞の意味についての理解が不十分である。</p>	<p>長文では多くの英文を読む経験をさせる必要がある。全体の構成を考えて、前後の内容から推測して読み進めていく力を養いたい。 また、日本語の語順で日本語に訳しながら読むのではなく、意味のかたまりを意識して英文を前から読んでいく訓練を続けて指導していきたい。</p>
書くこと	<p>○基本の語彙はほぼ習得しており、情報に基づいて書く英作文は市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●市の平均正答率を0.2ポイント下回っている。 ●与えられた課題について5文以上の英文でまとめて書く英作文は、市の平均正答率をやや下回っている。</p>	<p>書くための語彙力を高めるために授業ではドリル的な活動を入れ、英単語や熟語、定型表現を覚えさせたい。 英作文の指導では、テーマに基づいて構成を考えながら書かせたり、関係代名詞や現在分詞、過去分詞を用いて後置修飾の文を使わせたり、表現力の育成につながる機会を積極的に作っていきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・ 授業力の向上 一人1授業の公開と校内研修の充実	・ 「学校の授業はよく分かりますか」、「勉強が好きですか」、「学習する教科が将来のために大切だと思っていますか」、「学習に対して自ら進んで取り組んでいる」の設問に対する肯定的な割合が高い。(生徒)
○ 計画的な小中一貫教育の推進	・ 小中学校で連携した学習指導の充実 学校園授業コンセプトの定着・充実	・ 「授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」に対する肯定割合が高い。(教職員)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各教科の調査結果を見ると、国語科で「社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができる」、「事実や意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができる」こと、社会科で「社会的な思考・判断・表現に関する記述式問題」、数学科で「筋道を立てて論理的に証明する説明問題」に対する正答率が低かった。

また、英語科で、語彙力が不足しているために、対話文や長文の読み取り、英語で表現することが困難になっている生徒が多い。

以上の点について、以下の取り組みを進めていく。

- ・ 一人一人が考え表現する言語活動の充実を図る。
- ・ 学び合う(話し合い活動を含む)機会を取り入れた授業を展開する。
- ・ 生徒の語彙力向上、会話の質を高めるために教室の言語環境を整える。
- ・ ワークシートを工夫し、記述式問題の課題に取り組む機会を増やすように努める。
- ・ 小学校と連携して、共通の研究課題を設定し、問題練習の時間を十分に確保するための工夫や連携した指導ができるような縦の年間指導計画の研究を進める。

主体的、対話的に授業に取り組む生徒の育成を目指し、「考える力を育む言語活動の充実」について、来年度も研究を進めていく。